

高野祐二
(たかの・ゆうじ)さん
医学部医学科5年

両親とも眼科医で、子どもの頃から医師は身近な存在だったという高野さん。医学部進学の意味を固めたのは、テレビで見た名医への憧れからだった。「難しい手術に挑むその姿に感銘を受け、自分も外科医になりたいと思いました。自分の手で治療できることにやりがいを感じています」

患者さんと向き合い
対話できる医師になりたい



医学部医学科5年の高野祐二さんは、臨床実習の毎日を送っている。先日回った消化器内科では、高齢のがん患者を受け持った。

「担当初日に腹部の触診をしたところ、翌日も私のことを覚えていて『手で触れて診察してもらえたのがうれしかった』と話してくれました。患者さんの気持ちを知ることができて貴重な経験ができました」

高野さんは、これまで基礎研究にも積極的に取り組んできた。夜遅くまで実験することもあったが、充実した毎日だったと話す。

「2、3年のときは研究実践プログラムで細胞生理学研究室に通い、骨代謝について研究しました。4年のプロジェクトセメスターでは、分子腫瘍医学研究室に所属し、肝細胞癌の薬剤耐性をテーマに研究を行いました。1つの発見で多くの人を救うことができる研究にもやりがいを感じます」

部活動では陸上部に所属し、短距離競技に出場してきたが、陸上競技を始めたのは大学に入ってからだという。

「中学、高校と卓球部でしたが、大学では違うことに挑戦したかったです。4年のときには主将も務めました。自己記録を更新したい人であれば、運動を楽しみたい人もいて、部員たちの意見を尊重してまとめるのが大変でした」

卒業後は臨床医としての道を目指す。目標とする医師像も徐々に明確になってきた。

「診療所実習で伺ったクリニックの先生のように、患者さんの生活背景や家族間の悩みまで把握して関われる医師が理想です。そのためには医学の知識や技術はもちろん、コミュニケーション能力も身に付けたと考えています」

理想の医師像に近づくため、高野さんの努力はこれからも続いていく。B

プロジェクトセメスターで通った分子腫瘍医学研究室。大学卒業後も臨床と並行して研究を続けていきたいと考えている。

←2年生のとき、全関東医歯薬獣医科大学対抗陸上競技大会で男子200mに出場した。

